

地方独立行政法人りんくう総合医療センター
平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和元年 8 月

泉佐野市

目 次

	ページ数
1 年度評価の方法	1
2 全体評価	
(1) 評価結果と判断理由	2
(2) 全体評価にあたって考慮した事項	2
3 大項目評価	
3-1 住民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	4
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	4
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	5
3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	6
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	6
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	7
3-3 財務内容の改善に関する事項	
(1) 評価結果と判断理由	7
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	8
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	9
3-4 その他業務運営に関する重要事項	
(1) 評価結果と判断理由	9
(2) 大項目評価にあたって考慮した事項	10
(3) 評価にあたっての意見、指摘等	10

1 年度評価の方法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、地方独立行政法人りんくう総合医療センター（以下「法人」という。）の平成 30 事業年度の業務の実績に関する評価を、地方独立行政法人りんくう総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見等を踏まえて、次のとおり行った。

1 評価の基本方針

中期目標及び中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、法人の継続的な質的向上に資するものとし、業務運営の改善や効率化等の特色ある取組や様々な工夫を積極的に評価するものとする。また、評価を通じて、中期目標及び中期計画の達成に向けた取組状況等を市民にわかりやすく示すものとする。

2 評価の方法

評価は、「項目別評価」（小項目評価及び大項目評価）と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人の小項目ごとの自己評価をもとに、実施状況等の事実確認、法人のヒアリング等を通じて、年度計画に照らし合わせて進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証、評価を行う。

「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、また、法人化を契機とした病院改革の取組みなども考慮しながら、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

なお、上記 1 評価の基本方針及び 2 評価の方法については、平成 23 年 8 月 31 日評価委員会決定した「地方独立行政法人りんくう総合医療センターに対する評価の基本方針」及び「地方独立行政法人りんくう総合医療センターの年度評価実施要領」を踏襲したものである。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

地方独立行政法人となり第2期中期計画の第3年次である平成30事業年度において、年度計画及び中期計画の達成に向けて概ね計画どおり進捗している。

大項目評価において、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項ではB評価（概ね計画どおり進んでいる）、業務運営の改善及び効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項はA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断したものである。

各計画項目の取り組み状況としては、業務運営の改善及び効率化に関する事項において、コンプライアンスの強化、働き方改革への対応、苦しい財政状況、向かうべき厳しい医療の方向性など、全職員で課題を共有し意識しながら、急性期病院として生き残るための方策を講じることが求められる。

一方、財務内容の改善に関する事項については、病床稼働率は年度目標を達成してはいないが92.2%と高水準を維持しており、財政再建プランに沿った各種取り組みなどにより収支改善が図られ、当期純利益は黒字に転換した。

総体的には、当該事業年度における個々の課題はあるものの、全体としては中期計画に沿った運営がなされていると認められる。次年度以降、消費税増税による影響、老朽化する施設の維持管理費の上昇などが見込まれ、訴訟案件の影響など不確定要素もあり、再び収支不足とならないよう引き続き効率的かつ安定した病院運営を行うことを期待するものである。

(2) 全体評価にあたって考慮した事項

- ① 病床稼働率が前年度比2.2ポイント減の92.2%となったものの、高水準を維持し、外来収益の増などにより、全体としては前年度並みの営業収益を確保している。
- ② 財政再建プランに基づき財政状況の改善に取り組み、当期純利益は約2億2,500万円の黒字となり、経常収支比率、医業収支比率は目標を達成することができている。
- ③ 機能を強化した患者サポートセンター、なすびんネット等により、地域の関係者との信頼関係を深めて連携を強化し、診断から治療、在宅へと地域全体で医療・保健・福祉サービスを切れ目なく提供していく体制づくりが図られた。
- ④ 診療報酬のDPC係数において、当該年度の実績が反映され、平成30年4月から大学病院のレベルに次ぐ特定病院群（旧Ⅱ群）に指定され、診療報酬の増加が図られた。
- ⑤ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）保菌者が発生し、迅速で徹底したVREの伝播防止対策の適切な実施は評価できるが、少なからず収益に影響を及ぼした。

- ⑥ 岸和田労働基準監督署からの是正勧告に対して是正を行ったが、その対応による給与費の増があるほか、一部について訴訟提起されており、その動向に注視すべきである。

3 大項目評価

3-1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、B評価（概ね計画どおり進んでいる）とする。
- 35項目の小項目評価のうち、患者中心の医療②及び医療安全管理の徹底②の2項目でⅡとなっているが、災害医療・救急医療①、患者中心の医療⑤、地域の医療機関との連携①の3項目でⅣ評価となっている。
- 災害医療においては、DMAT活動や訓練・研修を重ね、全職員の災害時医療に対する知識向上に努めるとともに、平成30年度に機能強化した患者サポートセンターにおいて、地域の関係者との信頼関係を深めて連携を強化し、在宅復帰の支援を行っている。また、紹介率・逆紹介率の高水準での維持やなすびんネット登録件数の大幅な増加など、地域医療連携の強化が図られている。その一方で、がん等各種相談件数は減少しており、感染症保菌者の初期対応に課題もあったことなどを踏まえて、大項目評価としてB評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

（特に認める場合）

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。

（すべての項目がⅢ～Ⅴ）

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上）

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。

（Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満）

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。

（特に認める場合）

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 (1) 災害医療・救急医療①】について、災害拠点病院として緊急事態に対応できる体制を維持し、院内訓練を部門別に開催を重ねることにより、全職員の災害時医療に対する知識向上に努めた。DMAT活動については、大阪北部地震での派遣や、台風21号災害においては、関西国際空港への派遣及び院内にDMAT活動拠点本部を立ち上げ、府下の医療機関から派遣されたDMAT隊の受援対応を行なうなど実績を積み重ねており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

- ② 【3 (2) 患者中心の医療②】について、セカンドオピニオンやがん等各種相談ではプライバシー確保のため、相談コーナーをブース付きの相談場所へ変更し内容の濃い相談対応を行っているが、相談件数については減少し、案内・PR等に課題が見受けられ、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ③ 【3 (2) 患者中心の医療⑤】について、平成30年度に機能強化した患者サポートセンターにおいて、地域の関係者との信頼関係を深めて連携を強化し、診断から治療、在宅へと地域全体で医療・保健・福祉サービスを切れ目なく提供していくことで、在宅復帰の支援を行っている。緊急入院対応、退院支援加算の件数が増加しており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ④ 【3 (6) 医療安全管理の徹底②】について、院内感染予防対策として、専門チームにおいて、医療関連感染の予防のための症例の調査、医師・看護師への助言や指導等を行うとともに、全職種の職員を対象とした学習会を開催し、注意喚起を行っている。平成31年1月にバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）保菌者が発生し、マニュアルに基づいたVREの伝播防止対策を迅速に実施しているが、初期対応に課題があったことから、小項目評価ではⅡ評価としたものである。
- ⑤ 【4 (1) 地域の医療機関との連携①】について、紹介率64.7%、逆紹介率112.2%で高い数値を維持しているほか、なすびんネット登録件数が大きく増加するなど、地域医療連携の強化を図っており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 質の高い医療の提供	9			8	1	
2 医療水準の向上	7			7		
3 患者・住民サービスの向上	15		2	12	1	
4 地域医療機関等との連携強化	4			3	1	
合計	35	0	2	30	3	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- ① 応援医師の多額な人件費を改善するため、働き方改革による時間外勤務の制限や地理的な要因による医師確保の難しさはあるが、さらなる常勤医師の確保に努められたい。
- ② がん相談支援センターについて、移設によりプライバシー保護の観点等で改善されているが、相談件数が大きく減少していることから、在宅に戻った場合も含め患者の誰もが認知でき相談しやすいよう環境や方法を検討し、患者とその家族及び関係機関へのサービス向上に努められたい。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、A評価（計画どおり進んでいる）とする。
- 12の小項目のうち、IV評価が職員の職務能力の向上の①及び④の2項目が該当し、10項目がIII評価となっている。
- 研修施設・プログラムを有効に活用する一方で、職員のモチベーション向上のための職員表彰、資格等取得やスキルアップに対する各種支援策を実施し、効率的・効果的な業務運営をめざしたことなどを踏まえ、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(特に認める場合)

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がIII～V)

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(III～Vの割合が9割以上)

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(III～Vの割合が9割未満)

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(特に認める場合)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2(3) 職員の職務能力の向上①】について、多職種による症例検討会を定期的で開催するなど、教育研修プログラムを整備・活用している。シミュレーション機器の利用実績は大幅に増加しており、小項目評価ではIV評価としたものである。

- ② 【2(3) 職員の職務能力の向上④】について、医療職の専門性の向上をめざし、学会、発表会及び研修等への参加と職務上必要な資格の取得を促すため、業務の軽減や学会費等の費用助成を支援している。学会発表件数、論文等掲載件数は増加しており、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価 項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 運営管理体制の 確立	3			3		
2 効率的・効果的 な業務運営	9			7	2	
合計	12	0	0	10	2	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- 特になし

3-3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、A評価（計画どおり進んでいる）とする。
- 15項目の小項目のうち、収入の確保⑧がV評価で、IV評価が収入の確保の②、⑦及び費用の節減の②の3項目が該当し、11項目がIII評価となっている。
- キャッシュフローでは、年度期間中の資金不足解消のため、市からの短期借入金10億円の支援を受けるとともに、運営費負担金の増や医療機器購入のため起債を発行し資金確保に努めたが、給与費等の増により前年度比約1億5,300万円の資金減少となり、期末資金残高は約6億5,200万円となっている。
- 収益面では、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)の保菌者を把握するため、一部入院制限を行った影響で、入院患者数、救急入院患者数、手術件数が減少し、病床稼働率は目標値を達成することができなかった。また、運営費負担金収益については、ふるさと納税分のうちメディカルプロジェクト寄附分が増えたことによる影響で増加となっている。一方、費用面のうち、給与費では、財政再建プランに掲げた給与費削減の項目を復元するなかで、時間外労働時間を縮減し、必要な診療体制の確保、労働基準監督署による是正勧告の対応を行っている。また、減価償却費が減少、DPC係数向上に伴うVRE影響前の医業収益の増、材料費の減などにより、営業損益が改善となり、是正勧告に対応した給与費の過年度分の支給により臨時損失を計上したものの、経常収支は約3億2,900万

円の黒字を計上し、当期純利益は約 2 億 2,500 万円、経常収支比率は 102.0%、
医業収支比率は 91.1%となり目標を達成することができており、大項目評価
としてはA評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(特に認める場合)

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がⅢ～Ⅴ)

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割以上)

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(Ⅲ～Ⅴの割合が9割未満)

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(特に認める場合)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【2 (1) 収入の確保②】について、土日を含め切れ目ない急性期リハビリテーションの提供を行い、外来部門では、近隣で実施していない心疾患リハビリテーションを提供するなど、総実施単位数を増加させ収益増を図ったことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ② 【2 (1) 収入の確保⑦】について、ふるさと寄附のメディカルプロジェクトへの寄附を募る取組みを強化し、周知、お願いに努めた結果、大きく寄附額を増加できたことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。
- ③ 【2 (1) 収入の確保⑧】について、DPC 係数については、難易度の高い手術症例や緊急の重症患者を多く受入れ、在院日数の短縮に努めたことなどにより、平成 30 年 4 月に特定病院群 (旧Ⅱ群) に指定され、診療報酬の増加が図られたことから、小項目評価ではⅤ評価としたものである。
- ④ 【2 (2) 費用の節減②】について、後発医薬品使用率は 89.1%で、前年度及び目標値を大きく上回っているほか、内服処方薬の有効利用に取り組み、廃品薬品削減に努めたことから、小項目評価ではⅣ評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 資金収支の改善	1			1		
2 収入の確保と費用の節減	14			10	3	1
合計	15	0	0	11	3	1

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- 特になし

3-4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果から、A評価（計画どおり進んでいる）とする。
- 2項目とも小項目評価がIV評価となっているが、感染症対策及び国際診療のいずれも、着実に充実を図っていることから、大項目評価としてA評価が妥当であると判断する。

S……中期目標・年度計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)

A……中期目標・年度計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての項目がIII～V)

B……中期目標・年度計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる。
(III～Vの割合が9割以上)

C……中期目標・年度計画の達成のためにはやや遅れている。
(III～Vの割合が9割未満)

D……中期目標・年度計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

(2) 大項目評価にあたって考慮した事項

- ① 【1 感染症対策】について、当該年度は疑似患者1件の受入れ及び感染症を発生した妊婦の出産1件の実績があったものの特に問題はなかった。バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）保菌者の把握後における迅速で徹底したVREの伝播防止対策の実施は、損失抑制に大いに貢献した。また、集中治療を行うための高度安全病床の改修及び滅菌設備の更新について、国の補助金を活用して、工事整備を行っており、小項目評価ではIV評価としたものである。
- ② 【2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力】について、医療通訳者をボランティアから直接雇用に切り替え、実践的で質の高い医療通訳者の確保及び育成に努めるとともに、医療現場を活用し医療通訳の実地研修ができる教育研修機関として、引き続き実地通訳研修生の受入れに努めている。また、仲介業者を介しての外国人患者受入れは、乳房再建や早期胃がんに関する中国人患者を受け入れ、収益向上につなげたほか、外国人専用健診（インバウンド健診）として、ホームページ上に中国語で人間ドック健診を広報し、積極的に健診を受け入れたことから健診数が増加しており、小項目評価ではIV評価としたものである。

<小項目評価の集計結果>

項目	評価項目数	I 大幅に 下回る	II 計画を 下回る	III 計画を順 調に実施	IV 計画を 上回る	V 大幅に 上回る
1 感染症対策	1				1	
2 国際医療交流拠点づくり地域活性化総合特区の活用及び協力	1				1	
合計	2	0	0	0	2	0

(3) 評価委員会の意見、指摘等

- 特になし